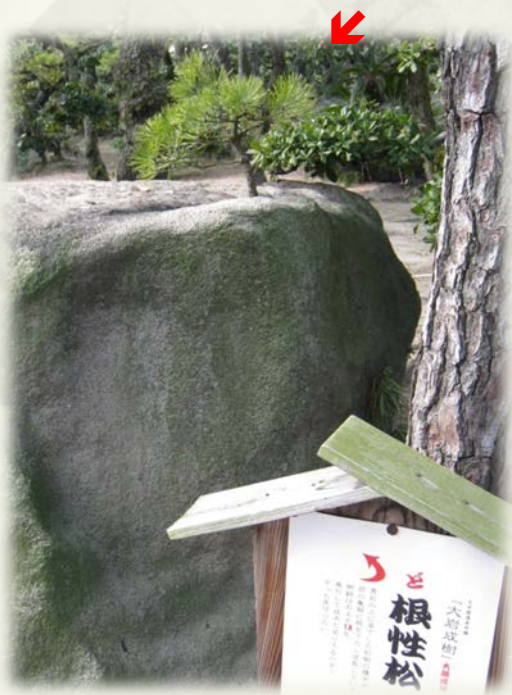

手稻溪仁会病院 小児科専門研修プログラム



香川県高松市、
石に根づいた松
ど根性松だそうです。

■手稻溪仁会病院小児科 概要

- 一般小児科病棟 27床
- NICU 6床、GCU 6床
- 年間入院症例数 約1300~1500人/年
(2016年度 1494人)
- 平均小児科外来数 約 30-40人/日



疾患の特徴



・1次～3次まで、多彩な小児疾患

急性肺炎 157例、尿路感染症 26例、気管支喘息発作 103例
川崎病 43例、急性脳症 13例、細菌性髄膜炎 5例、急性虫垂炎 28例、
先天性心疾患手術 16例、ECMO症例(心筋症) 1例 (2016年度)

・多い小児救急疾患

入院症例の1/3は小児救急外来経由の入院、
けいれん(重積)・意識障害 79例、クループ症候群 24例、
腸重積 3例、その他 異物誤飲、院外心停止など様々。(2016年度)

・広域な施設から紹介

4月29日 帯広厚生病院から、完全房室ブロックを伴った心筋炎
5月25日 市立函館病院から、硬膜外血腫(虐待)
6月27日 帯広協会病院から、頻脈発作＋心機能低下
10月13日 市立函館病院から、RSV感染症、高度換気障害
3月20日 市立千歳市民病院から、重症心不全(心筋症)ECMO装着
(その他数名、2016年度)



手稲溪仁会病院 小児科専攻医研修の特徴

1. 充実した教育システム、多彩な疾患

毎日の症例検討、教育的ヌーン・カンファレンス、症例検討会

2. 選ばれた施設での院外研修

北海道立子ども総合医療・療育センター、市立札幌病院 NICU
函館中央病院、札幌北楡病院
道外) 北九州八幡病院、神戸市立医療センター中央市民病院
国保松戸市立病院

3. Tailor-madeな研修を考慮

- ・ 集中医療を中心に！
- ・ 札幌から動きたくない
- ・ 子育てしながら研修（当直なし）
- ・ 研究（実験）もしたい
- ・ ・ ・ 相談に応じます。 ・ ・ ・





小児科専攻医の3年間



1年目 (PGY 3)

手稲溪仁会病院にて
一般小児科臨床
一般小児、NICU/GCU

Common Diseaseの対応
重症疾患の初期対応
一般技術の習得

ヨチヨチでも
一人立ち！



2年目 (PGY 4)

手稲溪仁会病院に残る

北海道立小児総合
医療・療育センター
(コドモックル)
稀有疾患の対応
技術一般の習得

市立札幌病院NICU
未熟児・新生児診療の充実

函館中央病院
NICU、一般小児
地域医療の実践

コドモックル

市立札幌
病院NICU

3年目 (PGY 5)

研修内容は
色々あるよ！

手稲溪仁会病院
将来に向けて

リーダーの役割
重症小児疾患管理
など

希望があれば、
国保松戸市立病院
神戸市立医療センター
中央市民病院
北九州市立八幡病院
3～6ヶ月

研究も

札幌
北
榆
病院

血液・
悪性
疾患

研修医同士で相談の上

1週間の予定

	月	火	水	木	金	土	日
	個人的回診						
8:15	前日・夜間症例の検討(当直医から申し送り)、連絡事項(小児科全体)						
9:00	チーム回診、カンファレンス、指示出し、入院処置					日直医・当番医 外来医	
12:00	ヌーン・カンファレンス、詳読会						
13:00	総回診	退院検討	入院処置		外来		
	外来	予防接種	外来	乳児検診	心カテ		
17:00	当直医への申し送り						
	当直医 PGY3には待機指導医 当直明けは、申し送り後フリー			症例検討 第4週			

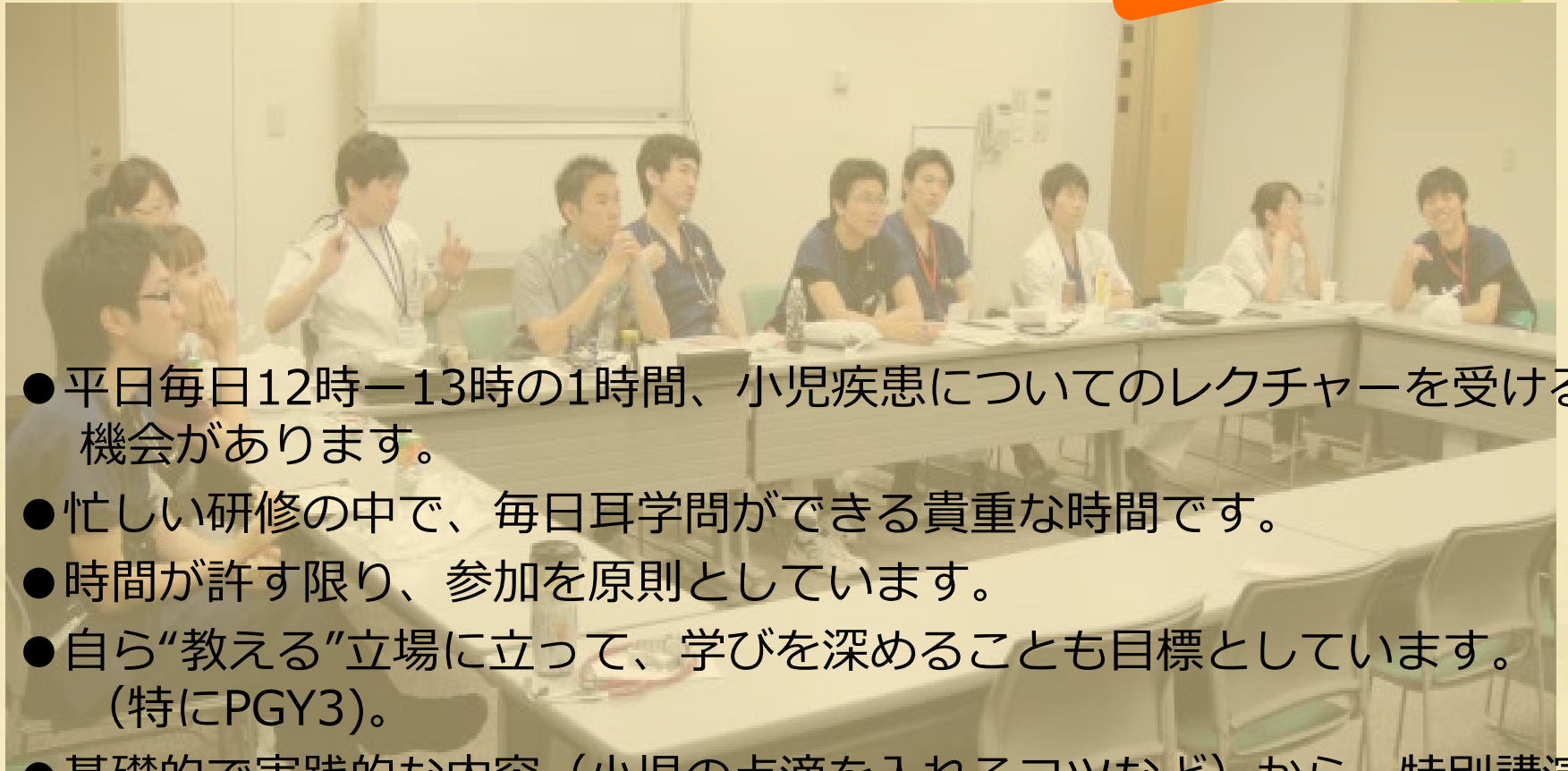
1日/週の休日の確保

朝のカンファレンス風景



ヌーン・カンファレンス

“Always Teaching,
Always Learning”



- 平日毎日12時－13時の1時間、小児疾患についてのレクチャーを受ける機会があります。
- 忙しい研修の中で、毎日耳学問ができる貴重な時間です。
- 時間が許す限り、参加を原則としています。
- 自ら“教える”立場に立って、学びを深めることも目標としています。（特にPGY3）。
- 基礎的で実践的な内容（小児の点滴を入れるコツなど）から、特別講演など 専門知識を学ぶ機会まで幅広く、多岐にわたる内容です。



■ヌーンカンファレンスの一例

2016年4月 小児科 ヌーンカンファ予定表					Kビル1階 102 or F7病棟カンファ室 12:00ー13:00
	月	火	水	木	金
第1週	4	5	6	7	8
	喘息		脱水	けいれん	FWS
	三宅		三宅	三宅	三宅
第2週	11	12	13	14	15
	PEAK基礎編	PEAK①	Delivering bad news	八田先生レクチャー	抄読会 Dr.廣上
	三宅	三宅	Dr.Constantine	八田先生	齋先生
第3週	18	19	20	21	22
	PEAK②	小児代謝レクチャー	PEAK③	Sharing decision making	抄読会 Dr.草島
	三宅	小杉山先生	三宅	Dr.Constantine	荒井
第4週	25	26	27	28	29
	未定	田村先生レクチャー	症例発表 Dr.福田(龍)	循環器レクチャー	祝日
	荒井	田村先生	野上	衣川先生	
第5週	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日
	症例発表 Dr.五嶋	祝日	祝日	祝日	内分泌レクチャー
	篠原				齋先生



学術 (2016年度)

発表(2016年度、研修医関連のみ)

PGY-3 荒井勇人医師

- ・てんかん発作重積との鑑別に難渋した二相性脳症(AESD)の一例
- ・メチシリン感受性黄色ブドウ球菌(MSSA)肋骨骨髓炎の一例

PGY-3 野上正雄医師

- ・小児甲状腺クリーゼの4例

PGY-5 糸島亮医師

- ・インフルエンザA感染症を契機に脳梗塞を発症したもやもや病の小児例

(院外研修病院から)

- ・当院NICU過去10年間における新生児消化管穿孔例の臨床的検討



■ スタッフ紹介



Dr.南雲
(川崎病、循環器)



Dr.松元
(PGY3相当)

Dr.小杉山
(代謝・消化器)



Dr.岩田
(新生児)



Dr. 野上
(PGY4)



Dr.田村
(集中治療)



Dr. 杉原
(アレルギー)



Dr. 長谷山
(循環器)



Dr. 荒井
(PGY4)



Dr.齋
(内分泌)



Dr. 及川



Dr. 大谷



Dr. 三宅
(PGY5)



小児科部長
Dr. 衣川
(循環器)

OBの声



橋本真理子先生(2007年卒 2007～2010年在籍)

最大の特徴は学ぶ機会の多さです。3次救急を含めた救急疾患や小児循環器・腎臓疾患など多彩な症例を経験することができます。更にCommon diseaseからICU Caseまで幅広い重症度の疾患・病態を経験できます。他院との連携も含め、卒後6年目での専門医取得に必要な症例は問題なく経験できました。また毎朝の病棟カンファレンスでは、指導医とのDiscussionを通じて診断や治療方針を確認し自分の考えを整理する事ができました。卒後3年目以降は一人で当直を行い自分で解決できるように訓練していきますが、いざという時には指導医が相談に乗ってくれます。毎日欠かさず行われるヌーンカンファレンスでは様々なレクチャーを聞くだけでなく自らが教える立場となって学びを深めることもできました。研修医は皆一生懸命でお互いに切磋琢磨しながら成長しています。やる気のある先生ならきっと満足できる研修になるはずです。

募集は、3名／年 です。



ぜひ、ご検討ください。